

## 日本結核病学会東海支部学会

### —— 第117回総会演説抄録 ——

平成23年6月25・26日 於 名古屋市中小企業振興会館（吹上ホール）（名古屋市）

（第99回日本呼吸器学会東海地方学会と合同開催）

会 長 佐 藤 滋 樹（名古屋市立大学呼吸器内科）

### —— 結核教育講演 ——

#### 結核治療困難例への対応

（JR東日本健康推進センター呼吸器科）佐々木結花

座長 加藤 達雄（国立病院機構長良医療センター呼吸器内科）

### —— 一 般 演 題 ——

**1. 肝生検で診断した粟粒結核の1例** °櫻井悠加里・竹内 章・原田夏菜子・市川博也・水野晶子・西尾昌之・吉川公章（社会医療法人宏潤会大同病呼吸器内）野々垣浩二（同消化器内）

症例は78歳男性。発熱で当院総合内科受診。両側肺びまん性粒状影の精査目的で呼吸器内科入院。抗酸菌塗抹検査陰性。肝生検の結果から粟粒結核と診断。DLSTでRFP陽性。EBによる視神経炎出現。最終的にHSZ+LVFX減感作療法導入し安定。

**2. 気管支結核の2例** °西永侑子・井上正英・宮崎晋一・伊藤源士・池田拓也（市立四日市病呼吸器内）

症例①：78歳女性。喘鳴あり近医受診。気管支喘息と診断。改善せず心不全疑いで循環器内科紹介。肺炎疑い当科紹介。胸部CTで右主気管支に狭窄，気管支鏡で白苔と炭粉沈着認め洗浄液の塗抹陽性判明。症例②：84歳男性。腰椎圧迫骨折で他院入院中咳嗽あり当科紹介。胸部CTで気管～右主気管支に狭窄，喀痰結核菌PCR陽性判明。

**3. EBUS-TBNAが診断に有用であった縦隔リンパ節結核の1例** °加藤達雄・大西涼子・小林瑞穂・鮎稔隆・安田成雄・佐野公泰（NHO長良医療センター呼吸器内）

症例は57歳女性。肺結核でHREZにて6カ月間治療。終了後6カ月で内部に低濃度域をもち周囲が造影される右上部気管傍リンパ節の腫大を認めた。EBUS-TBNAにて膿性の穿刺液が得られ，抗酸菌塗抹陽性，MTD陽性であった。縦隔リンパ節結核診断においてEBUS-TBNAは

有用であった。

**4. 肺内結核腫と考えられた1例** °前田浩義・福田悟史・中村祐美（名古屋記念病呼吸器内）

症例は26歳男性。主訴は発熱咳嗽。胸部X線写真で右胸水を認め，胸水ADA高値のためHREZによる標準治療を行い，胸水は順調に改善したが治療3カ月目に肺内の腫瘤影出現を認めた。治療継続で徐々に縮小傾向であり，肺内結核腫と考えられた。経気管支生検の結果はマクロファージの集簇を認めたが明らかな肉芽腫形成は認められなかった。

**5. 縦隔内異所性甲状腺腫の1例** °服部宗軒・棚橋雅幸・雪上晴弘・鈴木恵理子・羽田裕司・吉井直子・丹羽 宏（聖隷三方原病呼吸器センター外）

症例は70歳女性。S状結腸癌の術後経過観察中，胸部CTで左腕頭動脈と気管の間に造影効果の強い15mm大の縦隔腫瘍を指摘され当科紹介。縦隔腫瘍摘出術を施行し，周囲の胸腺組織ごと腫瘍を切除した。病理結果は異所性甲状腺腫であった。経過は順調で術後5日目に退院した。CT上腫瘍と甲状腺は連続性がなく，甲状腺ホルモン値などに異常を認めなかった。

**6. 肺浸潤をきたした成人T細胞白血病(ATLL)の1例** °浅野俊明・林 信行・日比野佳孝・山田祥之（JA愛知厚生連江南厚生病呼吸器内）上田格弘（同血液内）福山隆一（同病理診断）

症例は62歳女性。主訴はなし。現病歴は，3年前に成人T細胞白血病(ATLL)（急性型）と診断され，同種非血縁臍帯血移植を施行した。その後，再燃を認めなかった。

紹介3カ月前に発熱，胸部異常陰影を指摘。抗生剤・抗真菌剤を使用して，いったん陰影は改善したが，紹介1カ月前に再度陰影が増悪して入院。炎症所見高値が持続し，陰影が残存したため当科に紹介された。精査のため気管支鏡検査を施行。生検では肺胞壁主体に中型のリンパ系細胞の浸潤を認めた。免疫染色でくすぶり型または慢性型 ATLL の肺浸潤が示唆された。参考文献を交えて考察する。

7. 慢性好酸球性肺炎の1例 °川口将宏・浅野俊明・林 信行・日比野佳孝・山田祥之 (JA 愛知厚生連江南

厚生病呼吸器内) 福山隆一 (同病理診断)

症例は43歳女性。来院1カ月前からの咳を主訴に当院受診。37℃台の発熱を認め，WBC/CRP 14000/10.57と炎症反応の高値を指摘。胸部X線写真では両肺野に浸潤影を認め入院。入院2日目に気管支鏡検査を施行。気管支肺胞洗浄液，肺組織所見で好酸球を優位に認め，臨床経過から慢性好酸球性肺炎と診断した。入院3日目からプレドニゾロン30mgを投与したところ，自覚症状および画像所見は著明に改善した。